核のない未来へ つながろう

アメリカによる太平洋・ビキニ環礁での核実験（1954年）で日本の数多くのマグロ漁船員が被災したビキニ事件から68年。「2022ビキニデーin高知」（主催・実行委員会）は8日、「核被災を学び、核のない未来へ つながろう」を合言葉に全体集会を高知市内で開いて終わりました。

ビキニデーin高知閉会

パネルディスカッションを聞く参加者＝8日、高知市

オープニングは、マグロ漁船員への聞き取り活動をした複数高校生ゼミの本土生や大学生らによる「世界は一つの島なのだ＝ミクロネシア憲法前文」などの合唱と寸劇です。

「核被災と私と未来」をテーマにしたパネルディスカッションでは、小学校教員と高知大学の学生がパネリストになって、ビキニ労災訴訟原告らへの聞き取り活動の成果などを報告しました。

ある学生は、「歴史は教科書で学ぶ過去のものだと思っていたのが、実際に話を聞き、ビキニ事件はまだ終わっていない。自分とかかわりをもつものだと分かり、学び続け、次の世代にも語り続けたい」と発言。

別の学生は、ロシアによるウクライナ侵略について「遠い国のことと入ってしまうのではなく平和を」という声を集めつながることが、この戦争を止める力になる」としました。

東京地裁と高知地裁で行われている二つのビキニ訴訟の支援を呼びかける訴えがありました。奈良大教授の高橋博子さんが、「核兵器禁止条約発効の時代に生きる世代へ」と題して講演しました。

太平洋核被災支援センター事務局長の山下正寿さんが閉会あいさつ。全体集会に160人、3日間でのべ3000人の参加があったとし、「被災者の証言を次の世代に伝える青年の学びの可能性と未来に確信が持てました」と強調。第3回ビキニデー高知」を来年5月5日から7日まで、マーシャルやセミパラチンスクなどの人たちとの国際交流も含め計画したいとのべました。

学生「学び、語り続ける」

脅威削減へ 若者が重要な役割

国連事務次長・軍縮担当上級代表 中満さんメッセージ

ビデオメッセージを寄せた中満さん

全体集会では、国連事務次長・中満泉軍縮担当上級代表から4月27日に寄せられたビデオメッセージが紹介されました。要旨は次の通りです。

◇

核実験の惨状は破壊以外何もありません。悲しいことに、この破壊的な核実験から約70年たった今、核兵器が使用されるかもしれない可能性が冷戦の最盛期以来、最も高くなっています。核兵器を保有する国々は核兵器を近代化し、新しくてかつ危険な兵器や運搬システムを開発し続けています。本日の会合は、すべての核実験を禁止する必要性と、包括的核実験禁止条約・CTBTの緊急な発効の重要性を強調するタイムリーな機会です。

CTBTは核兵器のない世界という私たちの目標を前進させるために絶対に欠かせません。今年6月に開催される予定の核兵器不拡散条約・NPT第10回締約国運用検討会議は、これらの目標を前進させる重要な機会です。

若者たちは、核兵器に関する問題意識を高め、核拡散を含む核兵器の脅威を削減するために、新しい方法をつくりだす過程において重要な役割を果たすことができます。

核兵器禁止条約には、犠牲者支援や環境修復に関する核心的で、人間を中心に据えた条項が含まれており、これらの実施体制の整備は重要な効果を生みだすでしょう。8月1～26日に開催される予定の核兵器不拡散条約・NPT第10回締約国運用検討会議は、これらの目標を前進させる重要な機会です。

若者たちは、核兵器に関する問題意識を高め、核拡散を含む核兵器の脅威を削減するために、新しい方法をつくりだす過程において重要な役割を果たすことができます。